

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New22号 2006年8月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 『迷走する両立支援』 萩原久美子	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きで紹介しています	(2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(14)
編集長の著者インタビュー 『恋人とつくる明日』の著者 村瀬幸治さんに聞く	(15)
ホットファイル	(15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (5・6・7月)	(16)
Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

迷走する両立支援

少子化社会への危機感から、かつてなく両立支援に注目が集まっている。政府は仕事と家庭の両立支援策を矢継ぎ早に打ち出し、ワーク・ライフ・バランスという新語もメディアに定着した。延長保育など保育サービスや育児休業の拡充も進められ、男性の育児休業取得を課題とする企業も出てくるようになった。

それなのに、男女共に両立は以前にもまして厳しいものとなっている。サービス残業、長時間労働に歯止めがかかる気配はない。非正規雇用は増え続け、「雇用の柔軟化」のもとに雇用上の平等は空洞化しつつある。「日本はもはや平等な社会ではない」と国際的に指摘されるまじになった。その中でお仕事を去る正社員の母親は後を絶たず、「恵まれた」身分と各種両立支援を手放していく。

その「恵まれている」といわれる正社員の母親、かつての正社員の母親たちが言う。「職場は育児への理解もあり、制度も整っていました。でも……」「短時間勤務を利用して働き続けられる。そのことだけでもありがたい。でも……」。

取材で出会った100人を越える働く母親の多くは両立支援が職場で整備されていることを説明しながら、いつもそこから口ごもった。「でも」から始まる自分の体験を保育制度の問題、職場の両立支援制度の不備など世間で言われるような「両立の悩み」のカテゴリーに落とし込んで語ろうとするのだが、何かがこぼれおち、そのものどさを自分でもうまく表現できない。そのせいか、取材を終えたとこんな言葉を何度も聞いた。「私の話なんて悩みや苦勞というほどのものじゃないです」「こんなとりとめのない話でいいんですか。愚痴になって、ごめんなさい」。

そうだろうか。一人の人が働き、子どもを持つ。その体験は職場や家族、地域のありようが複雑に交差する社会

萩原久美子 (フリーライター)



の網の目の中にある。その網の目の中で勃発する様々な問題に対して両立のノウハウでは乗り越えられないことがある。それでもなお、彼女たちは懸命にその問題を引き受け、自分にとっての家庭と仕事の両立を模索していた。その体験のどこが愚痴だというのか。彼女たちの体験はどれも社会が生み出している問題を「両立の悩み」「働く母親の悩み」として、なおも個人に返していく今の社会のまなざしを問うものだった。

両立支援の足元でいっそう厳しさを増す職場環境。雇用での不当な格差を直視しないまま進む国や企業の両立支援。母親は「どこかちがはぐだ」と感じながら、「子どもをもち、働くことを選んだのは自分だから」と得体の知れない不安と疲れを溜め込んでいる。育児や仕事への責任をしっかりと果たしたいと願う健康な人ほど傷ついている。自分が培ってきた能力を発揮し、生活とよぶだけの経済的基盤をもち、子どもや大切な人との関係をはぐくみ、暮らしの喜びを実感する。そんな願いを口にしながら、こうも言う。「今の時代、ぜいたくな悩みです」「私はわがままなんですよ」。彼女たちに、ここまで言わせてしまふ日本の社会とは何なのだろうか。

そんな思いに駆られながら、拙著『迷走する両立支援—いま、子どもをもつて働くということ』(太郎次郎社エディタス)を書き上げた。少子化、ジェンダー・パッシング、格差社会、構造改革と様々なベクトルが交錯するこの時代。私たちはそろそろ真剣に新たな議論を始めなくてはならない。今の両立支援はだれのための、何のためのものなのか。それはこの社会をどこへ導き、その時、私たちは本当に幸せなのか。(4ページに著書の紹介)

最新刊情報

フェミニズム・女性学…… (2)
労働・仕事…… (4)
法律・政治・政策…… (4)
家庭・家族・衣食住…… (5)
子育て・教育…… (6)
こころ・癒し…… (7)

からだ…… (8)
セクハラ・暴力…… (8)
セクシュアリティ…… (9)
文学・エッセイ・芸術…… (10)
自伝・評伝…… (12)
高齢・福祉…… (12)

女性史・歴史…… (13)
メディア・資料・雑誌…… (13)
平和・開発・エコロジー…… (13)
絵本・こども・青少年…… (13)



〔フェミニズム・女性学〕

売女でもなく、忍従の女でもなく 混血のフランス共和国を求めて



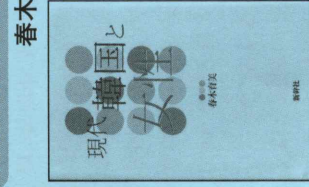
ファドウラ・アマラ/著 堀田一陽/訳
社会評論社 2006年5月 2100円
6人の女性と2人の男性によりつくられた運動体「売女でもなく、忍従の女でもなく」。フランスの人種差別、性差別の中で「ゲットー化」に反対し、平等を求める女たちの行進から生まれた。その運動はフランス全土に広がっていく。非宗教、平等、共生を求める運動の経験は、統合欧州に引きつけられるはずだ。

育児のジェンダー・ポリティクス 双書ジェンダー分析11



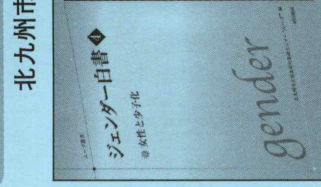
松橋恵子/著 勁草書房
2006年5月 3465円
対等であり続けたいと願うカップルも、ひとたび子どもを持つと育児を通して不平等な関係に陥っていく傾向がある。そうした育児をめぐるポリティクスを解明し、家庭内在的なジェンダー秩序について論じている。

現代韓国と女性



春木育美/著 新幹社 2006年7月 2100円
現代の韓国の女性問題がとてどもよくわかる。家族観、少子化、女性運動、女性政策、女性の政治参画などについて、それぞれにデータが紹介され、考察されている。大きな変貌を遂げた現代韓国市民社会であるが、日本との共通点も大きい。活発な韓国女性運動に負うところも大である。

ジェンダー白書4 女性と少子化



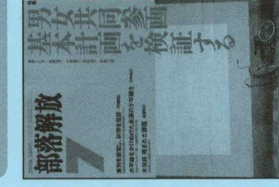
北九州市立男女共同参画センター “ムーブ”/編
明石書店 2006年6月 2100円
少子化について、家族主義政策、子育て支援策、両立支援、若者の生き方、科学・技術、男女共同参画センターの役割など、その分野の論客をそろえ実に多面的に考察している。
「少子化と男女共同参画」(江原由美子)「家族主義政策の帰結としての超低出生率」(落合恵子)「忘れられた若者たち」(竹信三恵子)など

バックラッシュ！ なぜジェンダーフリーは叩かれたのか？



上野千鶴子 宮台真司 斎藤環 小谷真理 他/著
双風舎 2006年7月 1995円
この本の著者の共通点は、「ジェンダーフリー」という言葉に距離を置いていること。「ためにする」批判はもうやめて、次に進もうと提唱していること。今まで出た、対バックラッシュ本とは一味違った味付けがしてある。すべて書き下ろし、語り下ろしの本。表紙と内容がいかににもミスマッチに感じるのだが、これは、なぜ？

部落解放 568号 特集 男女共同参画基本計画を検証する



解放出版社 2006年7月 630円
橋本ヒロ子、森屋裕子、中島通子、木村涼子、伊藤公雄が第二次男女共同参画基本計画について、各分野ごとに、前進と後退、バックラッシュへの対抗法、数値目標の設定などを論じている。

Q&A 男女共同参画／ジェンダーフリー・バックラッシュ ジェンダーフリーへの徹底反論



日本女性学会ジェンダー研究会編
明石書店 2006年6月 1680円
組織的、意図的になされている男女平等／ジェンダー／ジェンダーフリー／男女共同参画／性教育／フェミニズムへの批判の背景や、ジェンダー概念の整理、男女共同参画やジェンダーフリーに関してよくある疑問への回答、関連用語の基本的意味や政府の見解などについてわかりやすく解説。

女という快楽 新装版



上野千鶴子/著
勁草書房 2006年7月 2520円
1986年発刊の書を、最小限の訂正を付け加えて刊行した。「新装版へのまえがき」は、著書自身による過去の作品の解説であり、かつ20年間の女性学研究者のふりかえりでもある。読んでいない人はもちろんのこと、初刊時に読んだ人も、ぜひ新装版で再読を。80年代フェミニズムの代表作である。

＜侵略＝差別＞の彼方へ あるフェミニストの半生

飯島愛子/著
インパクト出版会 2006年6月 2415円
日本における第二波フェミニズムの先達だった「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」の理論的支柱であり、昨年亡くなった飯島愛子さんの半生の記と論文等を集大成したものの。女性差別の根本を見つえ、身をもって運動した人だった。巻末に加納実紀代氏による解説がついている。



男らしさの社会学 揺らぐ男のライフコース

世界思想社 2006年5月 1890円
「一人前の男」の意味が揺らぎ、男性たちの人生を不確かなものになっている。かといって「もはや女性優位の社会になったのだ」と主張できないことも確か。今の時代、男性たちの苦悩を理解し展望を開くには、男性をジェンダー化された存在ととらえつつ、男女の権力関係や利害関係を複眼的にみていく必要があると著者は説く。



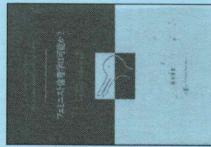
学習支援ハンドブック 協働の時代の学びと実践

(財)日本女性学習財団/編
(財)日本女性学習財団
2006年3月 1500円
「協働の時代」の学習支援とは？2年間にわたる「学習支援者養成プログラム開発研究」の成果が本になった。「おとなの学び」を展開しようとする女性センター等の職員の人、NPO・NGOの人々には是非。



＜フェミニン＞の哲学

青土社 2006年4月 2520円
99年から04年までの間に「現代思想」に掲載された論文に書き下ろし論文を加えて構成されている。ラカン、コーネルなどの最先端のフェミニズム理論を批判的に検証した哲学書。



あごら 第305号 ジェンダーバッシング

あごら新館/編 BOC出版部 2006年3月 1680円
ジェンダーバッシング特集。上野千鶴子の巻頭言、埼玉、宮城におけるバッシングの状況など。

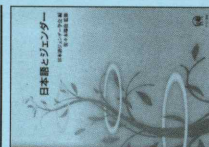
表象としての母性

平林美都子/著 ミネルヴァ書房
2006年6月 3675円
文学・映画作品の中で「母性」はいかに語られ、母の実態として定着してきたか。作品に表われる摂食異常、母娘関係、妊娠・出産などの考察はきわめて興味深い。



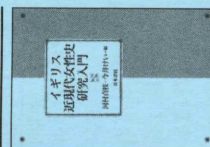
日本語とジェンダー

日本語ジェンダー学会/編
佐々木瑞枝/監修
ひつじ書房 2006年6月 2520円
日本語の中のジェンダー表現について10人の執筆者がつづっている。「日本語の男性を表す語句と表現」(佐々木瑞枝)「ジェンダーとポラリティネス」(宇佐美まゆみ)など。



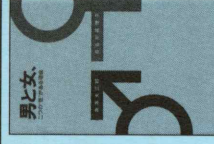
イギリス近現代女性史研究入門

河村貞枝 今井けい/編
青木書店 2006年5月 3675円
イギリス近現代のジェンダー史について、それぞれの関心分野を20人のこの道の研究者が書いている。この時代のイギリス女性の生き方や歴史がみえてくる。



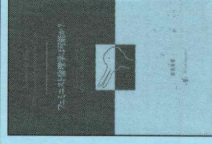
男と女、二つの“性”がある理由

奥本大三郎 長谷川眞理子/著
産経新聞社/発行 扶桑社/発売
2006年5月 1365円
昆虫学と行動生態学の形をとって語っているの的な違い」を往復書簡の形をとって語っているのだが、・・・今も議論沸騰のテーマである。本書だけで結論を出さない方がいい。



フェミニスト倫理学は可能か？

アンネマリ・ピーパー/著
岡野治子 後藤弘志/監訳
知泉書館 2006年5月 2520円
「1970年代から始まるフェミニズム思想の主要な展開を簡潔に論述することによって、フェミニスト倫理学の現代的課題を明らかにする」という本書は、書名だけみると難解に思えるかもしれないが、女性が歴史的に培ってきたケアの精神についてなど、わかりやすい説明が並ぶ。



現代のエスプリ別冊 ジェンダー・アイデンティティ 揺らぐ女性像

伊藤裕子/編
至文堂 2006年7月 2600円
巻頭には柏木恵子、川喜田好恵、金井寛子、伊藤裕子の座談会が30ページ。その後には母親のストレス(大日向雅美)、職場のハラスメント(宗方比佐子)、女子学生のキャリア意識(森永康子)、DV(周藤由美子)、女性雑誌(諸橋泰樹)など21人の論文が並ぶ。1冊でこれだけのテーママと著者…読み応えがある。



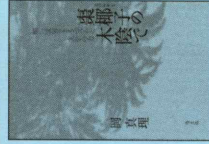
季刊 ピープルズ・プラン 特集 フェミニズム政治文化の展開

ピープルズ・プラン研究所/発行 現代企画室/発売
2006年6月 1365円
巻頭言として「こんな政治状況においてこそ、社会的文化的性差(ジェンダー)という権力関係を歴史の流れの中に置き、可視化し、対象化し、あるいは茶化し、セクシュアリティとの関係を問い、揺り動かし、転倒させつつあるさまざまなフェミニズムの営みが、威力を発揮する」とある。美術家 富山妙子、京都精華大教授 レベッカ・ジェニスン 哲学者 花崎翠平の鼎談ほか、李 小江(大連大ジェンダー研究センター)、瀬江紀子(女たちの歴史プロジェクト+α)、尾辻かな子(大阪府議会議員)、海妻徑子(岩手大教授)など。



栗椰子の木陰で 第三世界フェミニズムと文学の力

岡眞理/著 青土社 2006年7月 2310円
現代アラブ文学・パレスチナ文学、第三世界フェミニズム思想とすることを著者がこの10年間に書いた文がまとめられた。「…米軍包囲下のファッルージャで、あるいはイスラエル軍再侵攻下のパレスチナで、イラク人やパレスチナ人の命など虫けらほどの価値もないかのように日々、人々が殺されているのとき、いったい文学に何ができるのか……」と自らに問う。



迷走フェミニズム これでもいいのか女と男

E・バタンテール/著 夏目幸子/訳
新曜社 2006年6月 1995円
90年代以降、フェミニズムは本来の使命をないがしろにしている、と著者は言う。男性虐待、女性用ボルノ、多様化する男女関係やセクシュアリティ等の現実をみないフェミニズムとは何か？これでもいいのか、と。フランスからの発信である。



〔労働・仕事〕

女性事務職のキャリア拡大と職場組織

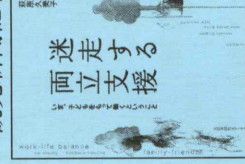
浅典典子/著 日本経済評論社
2006年5月 3990円



女性事務職の仕事とキャリアを職場組織の中でとらえ、その内容と変化をあきらかにすることを目的として書かれた。営業、平均的事務職、ベテラン事務職の実態の分析、性別職務分離の縮小についての論は大変興味深い。

迷走する両立支援 いま、子どもをもって働くということ

萩原久美子/著 太郎次郎社エディタス 2006年7月 2310円
読売新聞記者からフリーライターに転進した著者による、調査、



データ分析、アメリカ取材をふまえた綿密な、多面的なレポート。現代の日本で子どもを持って働くということがどんなのか、なぜこんなに難しいのかを丁寧に論じている。働く母親・父親の最前線での体験をもとにした両立支援策こそが必要だと説く。類書が多い中で、この本は現場をていねいにフォローした傑作である。著者自身の仕事・育児体験が嫌味なく生きている。(巻頭言参照)

在英ワーキングウーマン事情 わたしたちの英国暮らし

石井理恵子/編著 同時代社 2006年6月 1680円

イギリスで働く15人の日本女性たちが、どうやって職に就き、英語をものにしたり、現在の暮らしはどうかなどを率直に語る。会社員、ジャーナリスト、ダンサースタジオ経営、通訳、研究者など、多彩な職業についていた20歳代～40歳の女性たちのがんばり。海外で働きたい女性には先輩のアドバイスとして役立つだろう。

女性労働の分析 2005年 中高年女性の就業実態と意識

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局/編
(財)21世紀職業財団 2006年6月 1890円
「女性労働白書」が改題された。巻末には女性労働関係判例リストも。



ワーキングママの本音

安藤香織 伊藤ゆかり 鳥山奈々/編著
ナカニシヤ出版 2006年6月 2520円
子どもを産んだ女性の4人に3人は辞めていく時代。今でもワーキングウーマンは少数派。そうしたワーキングウーマン4人が、「仕事も子どもも」を実現するためのサバイバル術を書いた。

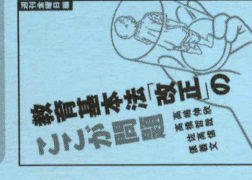
キャリアに揺れる 迷えるあなたに贈るブックガイド30

ナカニシヤ出版 2006年6月 1575円
自分の将来を考えるためにならなかのヒントをと考えて選ばれた30冊の本。「本とみなさんとの間



〔法律・政治・政策〕

教育基本法「改正」のここが問題



週刊金曜日/編
株金曜日 2006年6月 630円
第1章：与党案・民主党案のこれだけの問題点(高嶋伸欣) 第2章：愛国者を育てない愛国心教育(高橋哲哉×佐高真) 第3章：教育基本法「見直し」が急がれる背景(伊藤義文)。コンパクトな冊子ながら、問題点をうきまほりにしている

憲法は誰のもの

福島みずほ/著 明石書店 2006年4月 1890円
弁護士としてDV防止法、選択的夫婦別姓制度、セクハラや児童虐待、女性の人権問題に取り組み、参議院議員、社民党首となつた著者が、改憲されればこんな日になるのではと綴った。自民党の新憲法草案の批判とこれまでの流れなどをわかりやすく書いている。

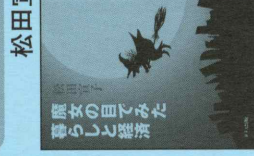
ベアテと語る「女性の幸福」と憲法

ベアテ・シロタ・ゴードン/語る人 村山アツ子/聞く人
高見澤たか子/構成
晶文社 2006年4月 2415円

GHQ民生局の職員として日本国憲法の草案づくりに参加し、第24条に「女性の権利」を書いた著者だからこそ書ける本。日本女性へのメッセージが随所に。



魔女の目で見た暮らしと経済



松田宣子/著 ドメス出版 2006年4月 2415円
備わっている生殖能力ゆえに、女性は往々にして経済活動の外野に置かれてきた、と著者。女性を軸にして暮らしや経済を再検討していくと、そこには、昔、理不尽にもうとまれた魔女や山姥に向けられたのと同じ思考経路がうかがってく



女性労働問題研究会/編
青木書店 2006年7月 1575円
特集「女性労働のいま」では、ますます困窮の度合いを深める女性労働の実態にせまっている。「2000年以後の労働市場にみるジェンダー再編の新局面」(石田好江)「増加する働く女性のワーク・ストレス」(金井篤子)など。

貧困と疲弊 女性労働のいま 女性労働研究 No.50

現代日本の家族と労働 新版

齋藤義博 石神美環子 小林真奈美/著
新青出版/発行 大学図書/発売 2006年6月 3150円
第1章：本書の研究手法 第2章：現代の家族と家族論 第3章：現代日本の生活と労働

ダイエーを私に売ってください。

広野道子/著 高嶋健夫/編著
徳間書店 2006年5月 1365円
大手コンサルティング会社に勤務後、飲料メーカーなどの役員を歴任し、2000年に起業した著者は、経営破綻した老舗の洋菓子メーカーヒロタを3年で立て直したことも有名。彼女のニュービジネス創業のノウハウや経営戦略、人脈の作り方や効果的ブレゼン術などは、起業を目指す女性、また女性を積極的に登用しようとする管理職や事業主には大いに参考になるだろう。

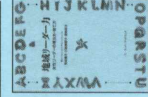
の段差にゆるやかスロープをつける」ことをめざしているという。斎藤美奈子、香山リカ、大日向雅美、金子雅臣、鹿嶋敬などの女性学・ジェンダー問題に親しむ人にはおなじみの人々の作品もある。働くということを少し違った角度から考えてみるのによいかも。

夫婦親子男女の法理知識 実例解決百科

自由国民社/編 自由国民社 2006年5月 2100円
家族や親族、友人間で起こる困った出来事について、幅広く実例にそって解説。

地域リーダーカ 女性リーダーの育ち方・育て方

荒金雅子 川端美智子 森野和子/著
パド・ウィウメンズ・オフィス 2006年6月 1575円
女性リーダーを育てるためのトレーニングガイド。
実践的にわかりやすく書かれていて、すぐ使える。



子どもの権利ガイドブック

日本弁護士連合会/編著 明石書店 2006年6月 3780円
子どもの権利を守るための総合的なマニュアル本。いじめ、体罰、少年事件、教育の権利、性と子どもの権利など、あらゆる分野を射程に入れてしっかり書かれてある。

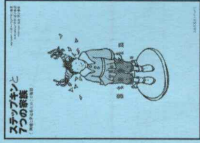
憲法が変わっても戦争にならないと思っている人のための本

高橋哲哉 齊藤貴男/編著
日本評論社 2006年7月 1470円

〔家庭・家族・衣食住〕

ステップキシンと7つの家族 再婚と子どもをめぐる物語

ベギー・ランプキン/著 中川雅子/訳 永田智子/絵
太郎次郎社エディタス
2006年5月 1785円



ステップキシンとは、階段(ステップ)の下に住む空想上の存在。離婚や再婚の問題に直面してとまどう子どもたちの声に耳を傾け、再出発へのヒントと力を与えてくれる。

離婚は家族を壊すか 20年後の子どもたちの証言

コンスタンス・アーロンズ/著
天富俊雄 加藤和美 ゲイル雄季子 田中麻美子
辻祥子 山中和代 渡利美重子/訳 寺西のぶ子/監訳
バベル・プレス 2006年4月 1890円



親の離婚から20年。成人した子どもたち173人への聞き取り調査である。それによると4分の3の子どもが両親の離婚が正しかったと答えている。子どもたちが親に知ってほしいこと、心の回復力のでき、「よい離婚」をすることなど、当事者(すでに離婚した人、これからしようと考えている人、支援者に読んでほしい。

Q&Aステップファミリーの基礎知識 子連れ再婚家庭と支援者のために

野沢慎司 茨木尚子 早野俊明 SAJ/編著
明石書店 2006年5月 2100円
ステップファミリー(血縁のない家族)をめぐる社会状況、法制度、家族過程、支援の現状などについて解説した日本で初の概説書。最終章では46のQ&Aによって、ステップファミリーをめぐっている疑問に答えてくれる。



夫婦・カップル関係 家族心理学年報24 「新しい家族のかたち」を考え

日本家族心理学会/編集 金子書房 2006年6月 3150円
多様化する家族や夫婦関係について論文集。総論として、夫婦の実証研究や夫婦の変化を、各論として、セックスレス、子育てが及ぼす影響、少子化時代の課題、ステップファミリーの問題などを、大学研究者やカウンセラー、教育者、医師が論じている。

夫と別れるときのお金の本

数本亜里/著 河出書房新社 2006年5月 1470円

編著者のほか、井筒和幸、山田朗、森永卓郎、室井佑月、貫戸朋子など多彩な執筆陣。「憲法と現代戦争 Q&A」「絵で見る憲法・戦争」「戦争への3点セット監視、格差、個性の否定」など。戦争し、監視される社会が近づいていることを思い知らされ、このままでよいのかと考える。

離婚と感謝料[全訂版] 豊富な事例判例・法令解説そしてアドバイス

有吉春代 平山信一/著
自由国民社 2006年7月 1680円
離婚に関するあらゆる事柄を網羅した解説本。「合計50万組の離婚カップルをサポートして来た離婚問題解決書のバイブル」と銘打っている。慰謝料、養育費、財産分与や年金分割についても具体的にわかりやすい。1981年初版

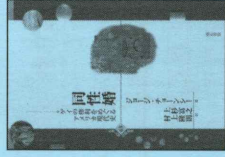
戦争で得たものは憲法だけだ 憲法行脚の思想

落合恵子 佐高信/編
七つ森書館 2006年8月 1260円
日本国憲法の思想(平和主義、国民主権、基本的人権の尊重)を社会や世界に広めたいと結成された「憲法行脚の会」。その呼びかけ人たちが、強い思いをもって行動をおこそうと語っている。



同性婚 ゲイの権利をめぐるアメリカ現代史

ジョージ・チョンシー/著 上杉富之 村上隆則/訳
明石書店 2006年6月 3675円



2004年11月のアメリカ大統領選において、同性カップルの法的承認の可否が争点となるに至った経緯を、第二次世界大戦以前にさかのぼって論証している。この分野での「先進国」たるアメリカの状況がよくわかる。

離婚に際して最大の問題となるお金のことについて、ファイナンسクリニック代表が書く。朝日新聞で好評だった連載に大幅加筆したもの。

あなたのとなりの熟年離婚 離婚カウンセラーが見た理想と現実

岡野あつこ/著 主婦と生活社 2006年5月 1365円
年金分割、調停、離婚後の生活など、離婚をちらちらでも考える人が知りたいと思うことが、事例などをまじえながら綴られている。熟年離婚をしたらひとりでなくてもやっていると自己診断するチェックも。

離婚後の親子関係サポートBook 地域で離婚相談を受ける支援者の方へ

NPO法人Wink 新川てるえ/編
ひつし書房 2006年4月 1680円
ひとりで親家庭の子どもの権利を考えるために書かれた。「養育費」「面接交渉権」の実態と問題点が詳しい。



結婚 あたらしい教科書5

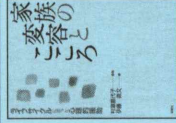
板本洋子 福嶋みずほ 岩下宣子 中山庸子/著
ブチグラパブリッシング 2006年6月 1575円
第1章結婚するには 第2章結婚のしくみ 第3章結婚の儀式 第4章家庭をつくる 第5章結婚をさらに知るために

家族ライフスタイルの社会学

デイヴィッド・チャール/著 野々山久也/監訳
ミネラルヴァ書房 2006年6月 3150円
家族と家族ライフスタイルについて、カナダ社会学者による入門的テキスト。家族とジェンダー問題、子どもの世話とケアの提供、離婚問題など、女性問題を学ぶ人にもわかりやすい。コラム、用語解説も。

家族の変容とこころ ライフサイクルに沿った心理的援助

村瀬嘉代子/監修 伊藤直文/編
新曜社 2006年5月 2100円
機能低下したといわれる現代の家族について、学者や臨床心理士、裁判所調査官らが現場の経験をふまえて親子関係、問題行動、DVや介護などさまざまな問題について論じている。



料理をするということとはどういうことか 愛と危機

ジャン＝クロード・コフマン/著 保坂幸博
マリ－フランス・デルモン/訳
新評論 2006年7月 3360円
インタビューを中心に、料理することを社会的に読み解いた本。ひとくちに「料理」といっても、とても興味深い営みなのだ。

おかあさんがもっと自分を好きになる本 (新装版)

北村年子/著 学陽書房 2006年6月 1470円
「いいお母さんではなく、幸せなお母さんになろう」「お母さん自身も、もっと自分を好きになろう」「私が私であるために」が本書のテーマ。
今あるいいものを喜び認められるために、自己を尊重するトレーニングを。



オトコの子育て講座 子をもつ父親が「子を育てる父親」になるための32のヒント

青木匡光/著 教育評論社 2006年5月 1365円
「子どもを育てる」ことに、男親としてどう関わるか。

居場所のちから 生きてるだけですごいんだ

西野博之/著 教育史料出版会 2006年3月 1680円
多摩川のはとりの公設民営の「フリースペースえん」の記録。運営主体のNPO法人フリースペースたまりは、川崎市子ども夢パークの指定管理者でもある。

死を通して生を考える すこやかな子を育てたいおかあさんへ

中村博志/著 リヨン社 2006年4月 1575円
子どもに死を通して生を考えさせる「デス・エデュケーション」。重症心身障害児医療に携わっていた医師が推奨する、命のたいていせつさがわかる子に育てるための41項目。

0歳からはじまる子育てノート エリクソンからの贈りもの

佐々木正美/著 日本評論社 2006年6月 1470円
著者は精神科臨床の医師。胎生期から乳幼児期にかけての子どもたちの成長や発達についておこなった講義に加筆したもの。医学的に考察しているが、わかりやすく書かれ、親へのアドバースになっている。

育児バトル 子育てはつらいよ!

齊藤恵/著 家の光協会 2006年5月 1050円
グラフィックデザイナーだった著者は、出産と同時にマンガ家・イラストレーターになった。本書は、幼児向け通信教育の親向け雑誌に連載されていたものをまとめた子育てマンガ。

涼太郎、またやっちゃった!? 母とこのドタバタ自閉症ライフ

倉田ちかこ/著 廣済堂出版 2006年6月 1260円
自閉症の子どもといっしょに過ごす毎日を描いたコミックエッセイ。自閉症への理解がすすむ。子育てについての楽しさ、苦しさ、そして親であることの幸せを共感できる。

30代未婚男

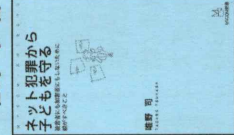
大久保幸夫 畑谷圭子 大宮冬洋/著
日本放送出版協会 2006年6月 777円
なぜ?未婚の30歳代男性が増えているのか、リクルートワークスの研究員とライターによる共著。社会背景、結婚制度の変化、未婚化が進む10の理由などを広い視野で追求している。

フィリピンー日本国際結婚 多文化共生と移住

佐竹眞明 メアリー・アンジェリン・ダノイ/著
めこん 2006年5月 2625円
日本に来るフィリピン女性の過去から現在の労働事情、仲介業者による日本男性との結婚や日本で暮らすフィリピン女性の様子、また自分たちの息子を通して見た、日本とフィリピンの違いなど、研究者夫妻のリポート。

ネット犯罪から子どもを守る 被害者にも加害者にもしないために親がすべきこと

唯野司/著 毎日コミュニケーションズ 2006年6月 819円
2004年6月に佐世保市でおきた、小学6年生の女児が同級生をカッターナイフで刺殺した事件。インターネット上のトラブルが誘因であったといわれている。子どもをめぐるネットライフは、今の大人が経験してこなかったもの。そんな状況を前提に、子どもにもネットリテラシーを身につけさせ、犯罪にまきこまれないような力をつけてもらうための本。



「ゆるむ」育児のススメ 出産〜1歳 赤ちゃんも私もハッピーになる

大葉ナナコ/文・イラスト
実業之日本社 2006年6月 1470円
5児の母であり「パースコーデイナーター」である著者が、ユーモアたっぷりのイラスト付で、産後のイライラや不安について、また実践的な赤ちゃんの世話の仕方、夫婦のパートナーシップ、産後の仕事などについて語る。先輩の話をきくつもりで。



ひとりで、できた! 子どもは手を使いなから一人立ちする

相良敦子/監修 池田政純 池田則子/著
サンマーク出版 2006年5月 1680円
本来「子どもは幸せになるよう、創られている」と著者。その持っている本質をせいいっぱい伸ばしていくことが子育てであるという。

おそいはい、ひくい、ひくい、たかい No.31 こどもきょういく・こごうBOOK
岡崎 勝 編 ジャパンマシニスト 2006年5月 1260円
宿題や片付け、友だちづくりについて、親が手を出したときと、引込まれたときについて、大勢の親の体験談や、教師の意見が紹介されている。山田真の新連載、昭和20年代の子どもの日記もおもしろい。

今求められる質の高い 乳児保育の実践と子育て支援

神原洋一・今井和子/編著
ミネルヴァ書房 2006年6月 2940円
保育士のための実践的教本。乳幼児の保育のノウハウだけでなく、食育や保護者とのコミュニケーション、少子化にともなう「子育て支援」の動向なども盛り込まれている。保育士だけではなく、子育てに不安をもつ親にとっても役立つのでは。



競争やめたら学力世界ー フィンランド教育の成功

福田誠治/著 朝日新聞社 2006年5月 1260円
国際学力調査PISAで世界一のフィンランドの教育とは?キーワードは「自ら学ぶ」にあるようだ。

子どもを育む住まい方 OMUPブックレット No5

小伊藤亜希子 中井孝章/著
大阪公立大学共同出版会 2006年3月 840円
子どもが育つてゆく住まいや空間には、何が必要か。どのような方がいいのか。今の住環境に警告も。

「おかあさん」を楽しむ37の方法

中山庸子/著 PHP研究所 2006年5月 540円
子どもがいるから何もできないと思わず、夢をもち、子育てや生活、仕事などなど、自分の夢を描いて生きようという著者のエッセイ。ほっとひと息つきたいひとへのメッセージ。

子育てにとっても大切な27のヒント クレヨンしんちゃん親子学

汐見稔幸/著 双葉社 2006年5月 1260円
子どもにも見えない番組の筆頭にあげられていたこともあったのに……。子どものあるのまを受け止める、家族のありのままをさらけ出すという、ストレスのない子育て術を人気アニメ「クレヨンしんちゃん」を題材に著者が解説。「おバカな子でも大丈夫」、「遊びの天才は生きる天才だ」など、マンガをよみながらの子育て論も、悪くはないか。

支え合い、育ち合いの子育て支援 保育所・幼稚園・ひろば型支援施設における子育て支援実践論

大豆生田啓友/著 関東学院大学出版会/発行
丸善傑出版事業部/発売 2006年3月 2415円
子どもの変容と多様な子育て支援の必要性、支援の実践などを分析、理論づけした。子育て支援の現場にいる人、子どもと関わる場にいる人に。

いま、子どもの放課後はどうなっているのか

深谷昌志 梁谷和子 高旗正人/編
北大路書房 2006年5月 2625円
社会環境の変化によってもたらされた子どものライフスタイルや心の変化を、放課後の過ごし方に着目して行った全国調査の

わたしって共依存？

河野貴代美/著 NHK出版 2006年5月 1365円

“共依存”という言葉が広がり、かえって不安に思う人が増えているという。人との「関係」を自分の人生にどう織り込めばよいのかにこだわり、不安に思うことをどうとらえていったらいいのか。著者は“共依存”そのものを否定しない。人に頼り、頼られながら生きていくことをすすめている。

女の「ちょいウツ」解消サプリ

海原純子/著 主婦と生活社 2006年4月 840円
「意味なく食べている」「人から何か言われるのがコワイ」「やっぱり家事は女の仕事と思う」といったケースに対して、すぐに気分転換ができる簡単な行動や気の持ち方を精神科医の著者が示してくれる。イラスト・マンガつき。うつつになるまえに。

子どもが動物をいじめるとき 動物虐待の心理学

フランク・R・アシオン/著 横山章光/訳
ビーイング・ネット・プレス/発行
星雲社/発売 2006年5月 2520円
「動物を虐待する子ども」が「対人暴力をする大人」につながるのか。教育・福祉・心理などの多分野から考察している。

こころの科学128

岡崎祐士 青木省三 宮岡等/監修
日本評論社 2006年7月 1200円
特別企画は「不安とむきあう」(中山和彦編)。誰もが持つ不安の感情であるが、ただむきあうことしか

結果から分析。多くの視点が提示されており、課題が見えてくる。

親だからできる5つの家庭教育

ほんの木/編 ほんの木 2006年6月 1575円
テレビやゲーム、早期教育や塾ではなく、家族のきずなを強くする、元気なからだを育てる、性と生命の大切さを伝える家庭教育について、さまざまな場で活動する人々が語る。

おそい・はやい・ひくい・たかい No32

岡崎勝/編 ジャパンマシニスト 2006年7月 1260円
特集Iは「女の子社会」のサバイバル術。今どきの「女の子社会」のきつさを観察すると……

子育て再発見 それでもやっぱり、子育ては楽しい

山下雅彦/著 ミネルヴァ書房 2006年7月 2310円
大学で教職課程を教える著者が、虐待など今どきの子育ての困難、男女平等にたった真の子育て支援策について、実態と今後の課題を論じる。父親の子育て、子育て支援の当事者主義、子どもの視点で子育てを見直すこと、足元(地域)から問題を問う姿勢を提示する。

恋するきみたちへ。ちっちゃい先生からのメッセージ

上村茂仁/著 ふくろう出版 2006年6月 1260円
「ちっちゃい先生」と上村茂仁先生が、高校生相手にメールでの無料相談を始めて8年。年間3万5000件のメール相談が来るという。10代の性の悩みや喜びを共有すべく、本書は書かれた。

子どもの安全はこうして守る！ これで、だいたいよぶ。子どもの成長に合わせた安全教育カリキュラムつき

清水憲二 宮田美恵子 村上信夫/著
グラフ社 2006年8月 1200円
子どもを守るため、大人が知っておくこと、やっておくこと、また子どもに対して、教えておくことーより実践的な言葉がけ、具体的に逃げる方法など、親子がいっしょに確認しながら、通学・下校、家の近隣、マンシヨンの共用部分などでの危機管理をしよう。

（こころ・癒し）

犯罪被害者の心の傷(増補新版)

小西聖子/著 白水社 2006年7月 1890円

犯罪被害者等基本法も施行され、犯罪被害者の権利にも少しずつ配慮がなされてきているが、犯罪被害の理不尽さや二次被害の存在は相変わらずである。本書は、殺人、強姦、虐待などの犯罪被害者の心理とそれへの支持についての入門書で、ロングセラ―。最近の事情をふまえて増補改訂された。

対応する道はない。どうしたら、上手にむきあえるか？

ジェンダー心理学 朝倉心理学講座14

福富護/編 海保博之/監修
朝倉書店 2006年6月 3570円
家族、保育、教育、メディア、高齢社会、セクシュアリティ、性差別主義などとジェンダーについて、心理学の視点から考察している。その分野の一線級の心理学者をそろえたというだけあって、いくつもの読みごたえある論文が並んでいる。

キャンパスのカウンセリング 相談事例から見た現代の青年期心性と壮年期心性

鳥山平三/著 風間書房 2006年5月 2310円
大学でカウンセラーを35年勤めた著者が、学生や教職員の相談事例をふりかえりながら、心について、生き方について読み解く。
消えたい症候群 リストカットとオートバードズ 生への処方箋を考える
山本紀子/著 教育史料出版会 2006年5月 1680円



自分を傷つけることなしでは生きていけない6人の若者たち。
“普通の子どもたち”が、消えたいと思ってしまう、その背景は？
処方箋は？血を流すのは生きている実感がほしいからというの
だが。

もう一回ココロに種まき

たかいたかこ/著 西日本出版社 2006年6月 1260円
2003年初版の『ココロに種まき』はゆうでもロングセラー。その
待望の続編。「今の自分」に気づきかけの種になることを願っ
た著者の思いが心にとどき、ほっと...

【からだ】

女性の痛み 女性のからだ 買いたいスタイルを選ぶために



半場道子/著 対馬ルリ子/協力
日本評論社 2006年6月 1890円
少子化と高齢化がこれほど急速に進んだことは、人類史上ないという。そしてその状況が、女性の身体に様々な‘痛み’をたらし、人生の質を著しく低くしているそう。経済の面から論じられることが多い少子化であるが、もっことも憂慮されなければならないのは、女性たちの健康」だと著者はいう。

産まない理由 今まで誰にも言えなかった私たちのホンネ

葉石おとり/著 イーストプレス 2006年4月 1418円
「おひとりさま向上委員会」代表というエッセイストが、なぜ産まないか、産みたくないか、真剣に悩んでいる女性たち取材。それぞれホンネにポイントをおいているので、現代社会の課題とリンクさせて考えやすい。

マンモグラフィってなに？ 乳がんが気になるあなたへ

美奈川由紀/著 日本評論社 2006年3月 1680円
触診の不十分さが指摘され、マンモグラフィ検診がスタートしているが、その受診率はまだ2.1%だそう。乳がんが気になる人は、本書を読んで、正しい知識を身につけよう。

女性の自力整体 自分のからだは自分で守る

矢上裕/著 永岡書店 2005年9月 1575円
イラスト、解説で、自然治癒力アップの方法を解説。レッスンCDがついている。

生理用品の45年の軌跡

小野清美/編著 ふくろう出版 2006年6月 1680円
生理用品そのものについて、メーカーの商品開発や女性社員の実態調査、月経に関する論文、震災と生理用品などの救援物資の供給についてなど、多岐にわたる。執筆は岡山大学医学部の教授や院生。

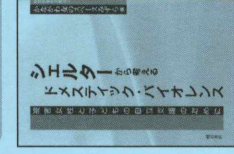
【セクハラ・暴力】

女性たちが変えたDV法 国会が「当事者」に門を開いた365日



DV法を改正しよう全国ネットワーク/編著
新水社 2006年6月1890円
市民がネットワークを組み、法改正に向けて活動をした記録。第1回省庁意見交換会の実録や、女性たちの行動に対して、新聞記者や議員たちがどう考え、どう応援したかの想いなどが記されている。行政や政治に働きかけをする際に役立つ資料を収録したCD-ROM付。

シエルターから考える ドメスティックバイオレンス 被害女性と子どもの自立支援のために



(特)かながわ女のスペーススミズら/編
明石書店 2006年6月 1995円
DV被害者のためのシエルター活動で日本の先陣をいく“みずら”の17年の活動をもふまえた報告。第1章はDV被害者と向き合う“みずら”の記録。第2章は、様々な立場の専門家を交えての「DV最前線」。第3章は、“みずら”メンバーによる座談会。巻末には「かながわDV支援プラン」骨子や調査の資料。

アディクションと家族 vol.23 No.1

家族機能研究所/編
IFF出版部ヘルスワーク協会 2006年5月 1680円
第16回日本嗜癖行動学会の報告が特集されている。テーマは「暴力問題〜この10年をふりかえる」。

被虐待児への支援論を学ぶ人のために

加茂陽/編 世界思想社 2006年5月 2100円
ソーシャルワークを中心とした被虐待児童支援の基礎論が展開されている。被虐待児童への創造的な支援論が作り出されることを願っているとは著者の弁。

今すぐわかる子宮内膜症 セカンドオピニオンを求めているあなたへ
永井莊一郎/著 新風舎 2006年5月 1470円
子宮内膜症についての解説とよくある質問/回答が二色刷りで整視されている。図も多く、わかりやすい。

よくわかる女性の医学

中村理英子/監修
西東社 2006年8月 1365円
小児期から老年期までの女性のライフステージにそって、からだのメカニズム、気になる症状、心の問題などについて解説している。



乳ガンから身を守る！ カラダのしくみとがんたんレシビ

續木和子/著 中央アート出版社 2006年6月 1155円
小学校教諭でアメリカのガン自然療法学会に毎年参加している著者が、からだに必要な栄養素、乳ガンの知識などにわかりやすく答える。ホルモンバランスを整える28の料理のレシピも掲載されている。

l-wish・・・ママになりたい

不妊治療情報センター ママになりたい編集部/編
シオン/発行 丸善/発売 2006年5月 1050円
特集は「男女のからだ検査」。

戦争と性 第25号 2006年・春 戦争のない世界、性暴力のない社会を目指して

「戦争と性」編集室 2006年5月 1575円
 今号の特集は「慰安婦」問題の現在。次々に被害女性の訃報が届く中、わたしたちに何ができるのかを問いかけている。

お芝居から生まれた子どもシエルトー

坪井節子/編集代表 東京弁護士会/編
 カリヨン子どもセンター/協力
 明石書店 2006年7月 1680円

東京弁護士会の弁護士たちが続けてきた約20年の子どもの人権を守る活動の上になつて取り組まれたお芝居「もがれた翼」と、それがもとで実現した子どもたちのシエルトー「カリヨン子ども家」の記録。子どもたちと弁護士がとらえられていく様子が、躍動感あふれて描かれている。

アジア・太平洋人権レビュー2006 人身売買の撤廃と被害者支援に向けた取組み

(財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)/編
 現代人文社/発行 大学図書/発売 2006年6月 2415円
 悲しいことに人身売買は、21世紀の今も世界中に広がりがつづけている。日本にもアジアやラテンアメリカ等から強制労働、性的搾取のために女性や子どもが送られてこまれていると、指摘されている。本書では、その解決に向けた取組みや各地の状況を分析。人身売買撤廃の道を探っている。

オーストラリア 少年少女心の実態 少年裁判所判事のケーススタディー

バーバラ・ホルボロー/著 梅原宗敬/訳
 彩流社 2006年6月 3150円

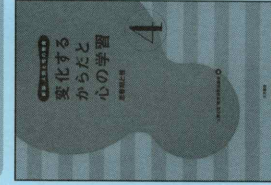
オーストラリアで少年少女の凶悪犯罪を裁くのは、ミンダ少年裁判所。その判事を長年務めた著者が、かの国の少年事件に現れた社会の問題点を探り出している。

イギリスの児童虐待防止とソーシャルワーク

田邊泰美/著 明石書店 2006年5月 6615円

〔セクシュアリティ〕

変化するからだと心の学習 思春期と性 ④



“人間と性”教育研究協議会/編
 大月書店 2006年5月 2100円
 “人間と性の教育”シリーズ第4巻。性的成熟に向かつて大きく変化している思春期の複雑な状況に対応する性教育が、是非とも必要とされている。思春期の性教育総論、性教育実践、Q&Aの三部構成。

性同一性障害の社会学

佐倉智美/著 現代書館 2006年5月 1890円
 ようやく関心が高まってきたトランスジェンダーであるが、医療や法律面からの考察か当事者の体験記がほとんど。本書はトランスジェンダーを社会学の立場でとらえている。

いのちとからだ・健康の学習 児童と性 新版 人間と性の教育3

“人間と性”教育研究協議会
 大月書店 2006年4月 2100円
 人間と性の教育全6巻シリーズの第3巻目は、“児童と性”について。児童期の性教育の必要性や構成要素等を説明する総論篇と性教育実践篇。

求められない女

加納梨津/著 WAVE出版 2006年6月 1365円
 出張ホストを買うことで、セックスストレスだった6年間の夫との

イギリスでは児童虐待死亡事件がおおくと必ずメディアが取り上げ、親以上にソーシャルワーカーに批判が向けられるという。しかし、ソーシャルワーカーのおかれている社会的、経済的状況にも目を配ろうという指摘も強いという。本書は、イギリスにおける児童虐待防止のあり様をソーシャルワーカーの視点から考察している。

暴力被害者と出会うあなへ DVと看護

友田壽子/著 医学書院 2006年3月 2100円
 看護師を経て研究者となり、日本DV防止・情報センターの運営委員でもある著者が、看護学雑誌に連載した「DVに看護師ができること」を元にまとめられている。

ドメスティック・バイオレンスへの対応 被害者と手を携えて

ハーヴェイ・ウォレス/著
 常磐大学・国際被害者学研究所/監訳
 成文堂 2006年3月 1050円

被害者学者による講演「ドメスティック・バイオレンス〜アメリカの視点から〜」、セミナー「ドメスティック・バイオレンス〜被害者と創る確かな支援〜」を日本語と英語で収録。DVなど被害者に対する支援の具体的方法など、アメリカの最新情報がわかる。

学校の危機管理 虐待から子どもを守る 子どものサインをどう読み取るか

兼田智彦/著 明治図書 2006年6月 1743円
 「子どもたちを守るために、子どもたちの立場で関わってほしい」と、教諭で虐待防止のNPO活動をしている著者は、書いている。虐待が起こる背景、発見から援助までの流れ、授業での取り組みなどが展開されており、アクションにつながる。

性暴力の理解と治療教育

藤岡淳子/著 誠信書房 2006年7月 3990円
 少年鑑別所での四半世紀の経験から、性非行は男性の抑えがたい性衝動のゆえというより、支配や優越、強さの主張といった欲求から行われると知った著者。性暴力の治療の方法を実践的に説いている。

ダブルハッピーネス



杉山文野/著 講談社 2006年6月 1680円
 2004年度女子フェンシング日本代表の早大生は、体は「女」で心は「男」の性同一性障害者。幼稚園の時からずっと悩んできた著者が、曲折を経て家族や友人にカミングアウトしていく。性同一性障害者は「男でもなく女でもなく」のではなく「男でもあり女でもある」のだと。

生活の不満を埋めようとした著者の体験記。女の買春とは何か、著者はサイトで選んだ若い男性とのセックスで、失ったものよりもどせたのか。デリヘル体験を出版した中村うさぎとの対談も巻末に収録されている。

「性愛」格差論 萌えとモテの間で

斎藤 酒井順子/著 中央公論新社
 2006年5月 735円
 「負け犬の遠吠え」の酒井順子と『社会的ひきこもり』を分析する斎藤環が、性愛について対談している。

トランスジェンダーとして生きる

眞木征鷹 山田正行/編著
 同時代社 2006年6月 1260円
 女として育った著者が、どのように男性であることを自認するようになったか、経験や思いがメールによるインタビューの形式で語られている。

季刊 セクシュアリティ No.27

エイデル研究所/編
 エイデル研究所 2006年7月 1500円
 特集は「ケータイ・ネットと子ども性」。インターネットが子どもにどんな影響を及ぼすか、ケータイ・ネットに関する高校生へのアンケート、ネットでしか発言できない若者の言葉。

性と生の主体者としての学習 青年期と性 新版
人間と性の教育5

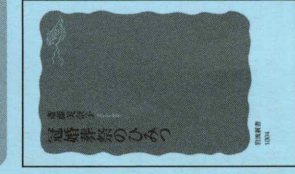
“人間と性”教育研究協議会/編
 大月書店 2006年6月 2100円

フィンランドにおける性的ライフスタイルの変容
3世代200の自分史による調査研究

エリナ・ハーヴィオ・マンニラ オスモ・コントゥラ アンナ・ロトキルヒ/著
 橋本紀子/監訳 大月書店 2006年6月 2940円
 セクシュアリティの変化や、男女の関係がどうつくられていくかがよくわかる。子ども・青少年の性的行動や、夫婦、不倫の関係における性など、それぞれによって語られるライフストーリーにおける性文化を分析した研究のあり方は興味深い。

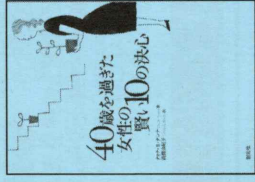
〔文学・エッセイ・芸術〕

冠婚葬祭のひみつ



高藤奈奈子/著
 岩波書店 2006年5月 777円編
 冠婚葬祭の秘密を探ると、これが極めて不思議な面白い文化であることがわかった。本書で冠婚葬祭の過去と現在を俯瞰し、現代にふさわしい対処法、これからの姿を考えよう。著者の筆、いつもながらに研えている。

40歳を過ぎた女性の賢い10の決心



ティナ・B・デシナ/著
 高橋由紀子/訳
 創元社 2006年5月 1890円
 40代、50代、60代の中年女性の抱える悩みや迷いに答える本です。中年とは「人生の後半を充実したものにするための準備期間」。

わたしの流儀 ひたむきに生きる女性たち

産経新聞特集部/編 産経新聞出版 2006年3月 1470円
 各界で活躍する女性リーダーたちの生き方とパワーを長期連載した「話の肖像画」(産経新聞)の中から、反響の大きかったものを抜粋。石井幹子、下重暁子、中山律子、井村雅代など。

官能論 祝福としてのセックス

宮迫千鶴/著
 春秋社 2006年4月 1785円
 絵描きとして“官能的”に生きてきたという著者のエロスは女としてはどうだったのか。それを知りたいと思った著者は、自分のエロスを見つめ、本書を書いた。自分が思っていた以上に、濃密で豊穡なものを秘めたエロスの多くを封印してきたと気がついたそう。



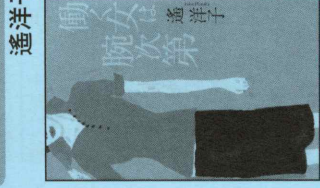
ベアテさんのしあわせのつかみかた

ベアテ・シロタ・ゴードン/著
 毎日新聞社 2006年5月 1260円
 GHQ民生局スタッフとして日本国憲法草案の人権条項作成に携わり、女性の権利を明記することに尽力したこと知られる著者が、幼少時や、草案作成時の思い出、パートナー選びへの思いなどを綴った。だいたひききなニッポン女性へ贈るメッセージがやさしい言葉で語られている。プレゼントにも。

典子44歳 いま、伝えたい 「典子は、今」あれから25年

白井のり子/著 光文社 2006年5月 1200円
 ‘62年に熊本で両親を失ったサリドマイド児として生まれ、マ

働く女は腕次第



遙洋子/著 朝日新聞社 2006年6月 1365円
 「日経ビジネス」に01年～05年まで連載したコラム。「目を覚ましてくれればいい」との依頼で日経ビジネスに連載を始めた著者は、自分のコラムは「男性にとつてはリトマス試験紙」だという。読み続けたのは、現状に満足しない、変化を恐れない男性たちだと。小泉チルドレン、耐震強度偽装問題、紀宮の結婚…など、時の話題も。

スコミに注目された著者。幼少期や就職、空前の大ヒットとなった「典子は、今」、結婚、2児の出産、子育てなど、今年の3月末に退職して、講演活動をスタートさせるに至る半生を振り返る。

思索の淵にて 詩と哲学のデュオ

茨木のり子 長谷川宏/著 近代出版
 2006年4月 1890円

詩人の茨木のり子と哲学者の長谷川宏が、その思索を詩と散文にして交互に掲載している。二人の思索が深い部分でコラプレートして、静かで独特のハーモニーを形づくっている。

女にさよならするために

ヴァレリー・トラニアン/著 夏目幸子/訳
 白水社 2006年7月 1470円
 フェミニズムのマイナスイメージを吹き飛ばすという著者は「ELLE」の編集長。「フェミニストであることは政治的であること」「女性性は犠牲者であり、連帯する義務がある」などなど、新しい仲間に出会った気持ちになる。



女詐欺師たちのアメリカ 19世紀女性作家とジャーナリズム

山口ヨシ子/著 彩流社 2006年3月 2940円
 1850年代から20世紀にかけてアメリカで書かれた女詐欺師の物語を分析し、他者をだますことで主体的に生きようとする女性キャラクターの意味を探っている。

生きる。一八〇日目のあお空

古武輝子/著 海竜社 2006年5月 1575円
 病と闘いながら、執筆、講演活動を続ける著者と、それを応援する医師や周囲の女性たちとのやりとりなどがいきいきと描かれる。こうありたいと、著者への敬意をもって読み終える本となるはず。

チルドレンな日本

香山リカ 佐高信/著 七つ森書館 2006年7月 1470円
 精神科医香山リカと評論家佐高信が、今の世相について対談。リベラルな視点から小泉政治やメディアの状況に切り込んでいる、テンポ良い対談集。

司書はときどき魔女になる

大島真理/著 郵研社 2006年4月 1365円
司書を“天職”としてきた著者が、図書館について、本をめぐって、図書館の出でくる映画をめぐって、縦横無尽に書きつづったエッセイ。

みすゞさんぽ 金子みすゞ詩集

金子みすゞ/著 三瓶季恵/人形
春陽堂 2006年5月 1260円
金子みすゞの詩35作品に三瓶季恵の人形の写真がうまくマッチしてて、ステキな詩集にできあがっている。

ジャンヌ 無垢の魂をもつ野の少女

ジョルジュ・サンド/著 持田明子/訳
藤原書店 2006年6月 3780円
1844年にジョルジュ・サンドの最初の新聞小説。バルザックらが絶賛したこの作品が、ようやく日本語で読めるようになった。ジャンヌ・ダルクの姿に重ねあわせることのできる羊飼いの娘ジャンヌを描いた、農民小説。

ジョイスのパリ時代 「フィネガンズ・ウェイク」と女性たち

宮田恭子/著 みすゞ書房 2006年6月 3780円
ジェイムス・ジョイスは20年間パリに住み、『フィネガンズ・ウェイク』を書いた。本書は、その時代のジョイスと彼をとりまく女性たちに焦点をあてている。

ココロのしずく カウンセラールのひとごと

たがはしたかこ/著 武田出版/発行
星雲社/発売 2006年6月 840円
女性の立場からの心的支援をめざすカウンセラーが、日々思ったことをエッセイにつづった。

子どもを犯罪から守る 犯罪被害当事者による、子どもを被害者にも加害者にもさせない方法

内野真/著 明石書店 2006年6月 1890円
著者は幼い時に性被害に遭っている。その体験をふまえて、性被害にあわないために必要な「授業」。性被害に遭った子どもや加害者に寄り添うこと、子どもを加害者にしないための方策をのべている。

乳がんは女たちをつなぐ 京都から世界へ

大津典子/著 藤原書店 2006年6月 2100円
京都の小さなクリニックでみつかった乳がん。不安の中で、乳がん仲間と出会い、ネットワークをつくり、英国、ロシア、ハンガリーの古都に出かけて交流する。そして、乳がんによって、仲間たちによって、生かされている自分に気づいていく。

「父の娘」たち 森茉莉とアナイス・ニン

矢川澄子/著 平凡社 2006年7月 998円
「少女」について、二人の作家へのオマージュとして書かれた「少女論」。「父の娘」として生きた二人の作品から、子どもでも大人でもない少女を語る。

おたより

ウィメンズブックストアゆうには、背すじが伸びるような感じとした空気と心地よい空間があり、充電されたような感じになって、また来ようというつも思っていたが、その源が何なのか、この本を読んでよくわかった。

1982年、京都で女性問題専門書を取り扱う書店をつくり、かつ、多くの人材やグループも育ててきた中西豊子さん。その発想や行動の数々、中西さんなくして生まれなかった出版物、多くの人たちに感動や意識変革をもたらした催しの仕掛けなど。本書にある豊子さんの言葉-「ほんとう？ スッゴイ、やるやる」。こんなセリフを言うことがたくさんある人生でありたいと思う。アクティブな女性たちとともに動けることは本当

読書する女性たち イギリス文学・文化論集

出淵敬子/編 彩流社 2006年3月 5040円
プロンテ姉妹、エリオット、ウルフ、オースティンなどを論じた33篇の論文から、その時々々のイギリスの文学・文化を知ることができる。

Single シングル 自由な女の尽きない魅力

パトリツィア・グッチ/著 泉典子/訳
世界文化社 2006年7月 1260円
シングルで将来に不安を抱いている人に、あのブランド、グッチの4代目が語るエッセイ。ワーカーホリック、自分本位、料理ざらいといったシングルの困った10タイプなど、日本の女性のライフスタイルに共通点のある視点も。

岡本かの子作品研究 女性を軸として

清田玲子/著 専修大学出版局 2006年3月 2520円
岡本かの子の作品評論。伝統を打ち破る新興いけ花の師を主人公にした作品「花は動し」を「ジェンダーからの解放」という視点で論じている。

刺繍 イラン女性が語る恋愛と結婚

マルジャン・サトラビ/著 山岸智子/監訳
大野朗子/訳
明石書店 2006年7月 2415円
マンガ(イラストと会話)で描かれたイラン女性9人の井戸端会議の本音トーク。語られた愛、結婚、離婚、セックスなど。



涙は女の武器じゃない より子流「しなやか奮闘力」

川口順子/著 小学館 2006年6月 1470円
育った家、両親のこと、大きな影響を受けた高校時代のアメリカ留学、通産省での仕事、結婚、子育てとの両立、「スパーウーマンシンдрーム」、環境庁長官から外務大臣、そして参議院議員へ。変化もチャレンジも臆せず受け入れ、挑戦してきた一人の女性の自伝的エッセイ。小泉首相による「女性蔑視発言」として話題となった「涙は女の武器」について、国会で質問された時の発言の真意も語られている。

キューポラのある街よ いつまでも

早船ちよとなかまたち/著 砂田弘/編集
けやき書房 2006年6月 3360円
「生活のだいじなところを受けとめられ、生活のだいじなところでごつとく文学をめざして」いた早船ちよと、その文学を愛した友たちが、ちよにささげた想いを文章にし、その作品を解説した。490ページの力作。

芥川龍之介の愛した女性 「藪の中」と「或阿呆の一生」に見る

高宮禮/著 彩流社 2006年7月 2100円
芥川龍之介の短い生涯を彩った二人の女性、女流歌人の秀しげ子と女将、野々口豊の二人について、著者独自の視点で考察している。

はシアワセなことなのだ。
上野千鶴子さんが解説で「この本は、過去のためではなく、未来につながるために書かれた」とのべている。今、読んだ私も、未来の読者の分とあわせてお礼を言いたい。書いてくださってありがとう。(ウィメンズブッククラブ会員)

ウィメンズブックストアものがたり
女の本屋の物語
中西豊子/著
ウィメンズブックストア ゆう/発行
ドメス出版/発売
1680円 2006年7月

(自伝・評伝)

江責に妬まれた女 ファーストレディ王美の人生

譚路美 / 著 日本放送出版協会 2006年5月 1890円

文化大革命で剰清され死亡した劉少奇の夫人、王光美の生涯。社会主義国のイメージとはかけ離れた高貴な気品を持ったこの女性が、どんなきつかけで結婚し、彼女自身にもふりかかりってきた受難を生き抜いてきたのか。文化大革命を生き抜いた数少ない証人の彼女も、インタビューーに応じた時は85才。本書はその時の飾らない言葉の語がもとになっている。



扉の回

松尾靖子／著 龍書房 2006年1月 1200円
検査技師として、兵庫県職員として38年間勤務し退職した著者が、駆け出しの頃のことや、震災時の体験などを書き綴った。

ジェーン・フォンダ 上・下 わが半生

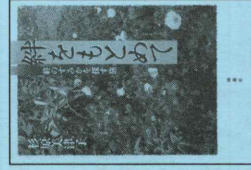
映画監督、反戦の活動家、大富豪との結婚と別れでも有名である著者の自伝。幼少時から60歳代で「あるがままの私になった」と言い切るまでを、5年の歳月をかけて書いたという1000ページの大作。

抵抗の証 私は人形じゃない

三井絹子/著 千書房 2006年5月 2100円

【高橋・福祉】

絆をもとめて 終のすみかを探す旅



シニアハウス、有料老人ホームで働いてきた著者の体験から、どうすれば支えられないながら過ごせるか、最後を迎えられぬかを綴った。ライフ&シニアハウス（東京、大阪、名古屋）、伊豆の友だち村の事例紹介など。「家族のように支えあって」の章では提唱者として駒尺喜美さんも登場。

ケアマネジャーが教える改正介護保険利用のしかた

2006年新制度に対応。「訪問調査員を利用者が選ぶことはできません」「保険料を滞納すると給付が減らされます」など、誰もが知りたいことをわかりやすく解説。2色で読みやすい。

アクティブ・エイジिंगの社会学
高齢者・仕事・ネットワーク

前田信彦/著 ミネルヴァ書房 2006年5月 3990円

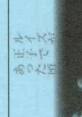
いえとまちなかで老い衰える
住そのシステムと器のかたち

井上由紀子/著 中央法規 2006年5月 1890円
地域で、その人らしい生活を営み年を重ねるために、社会制度、家(器)、地域の総合的なかわりが必要と説く。

ルイズが正子であった頃

ルイズ・ルピカール／著 未知谷 2006年6月 2100円

1928年にサイゴンで裕福な貿易商の家に生まれ、1937年母の実家である長崎にバカンスで戻った時、支那事変が勃発にバカンスを絶たれた一家は、第二次世界大戦終了までの11年間に日本各地ですごすことになった。その後の運命も、激動とあってよい。本書には外国人の目でみだ戦争中の日本の状況が描かれている。



間的尊嚴を回復するために闘った記録。

裸足の老修道女

シスター・エマニエル／著 原田葉子／訳
女子パウロ会 2006年8月 1470円
マザー・テレサのように有名ではないが、開発途上国のスラムで貧しい人とともに暮らし、惜しみなく身を捧げた修道女はたくさんいる。本書の著者もその一人。百歳近くになった今も、南仏で祈りの日々を送っているという。

共和国の女たち 自伝が語るフランス近代

長谷川イザベル／著 長谷川輝夫／訳
山川出版社 2006年7月 1365円

大学で仏語を教える著者が、日仏女性資料センターでの勉強会での成果でもある研究をまとめた。著者自身の生い立ちや、学びの時代のフランス女性事情がいきいきと語られている。さらに、前世代の女性四人の生きた道によって、近代フランス史がよくわかる。

ヘルパー歳時記 みんなに伝えたい、訪問介護の仕事と本音

三輪道子/著 かもがわ出版 2006年7月 1680円

世界の高齢化と雇用政策 エイジ・フレンドリーな政策による就業機会の拡大に向けて

OECD/編著 濱口桂一郎/訳
明石書店 2006年4月 3150円

OECDが今後の高齢化社会を見据えて、2001年から21カ国の各国別レビューを実施し、その総括としてまとめた報告書の和訳。各国の高齢者雇用率の現状や問題点について、多くの詳細なデータを用いた分析結果がまとめられ、政策提言が示されている。



同業者虐待防止活用ハンドブック

日本弁護士連合会高齢者・障害者の権利に関する委員会(編) 2310円
民事法研究会 2006年6月
高齢者虐待防止法の逐条解説、活用方法、虐待防止への実践的・具体的指針など満載。高齢者福祉に関わる人のためのハンドブック。

あなたの年金にあわせた高齢者住宅の選び方・探し方

グルーブわいふ/編 コモンズ 2006年8月 1680円

老人ホーム、公的賃貸住宅、介護付有料老人ホーム、グループリビング、一戸建て高齢者集落など、多様な、老後の住まいについて考察、体験者へのインタビュー、情報入手のための関係機関関係者、体験者ともに、少ない年金でどのように暮らすのがよいか、有料ホームと契約する際に知っておきたい重要事項の読み方など、きめ細やかかつ豊富な内容。

〔女性史・歴史〕

ヴィクトリア女王 ジェンダー―王権・表象

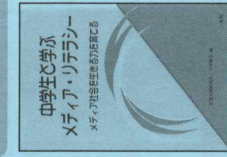


川本静子 松村昌家/編著
ミネルヴァ書房 2006年7月 3675円
君臨期間史上最長のヴィクトリア女王であるが、「公領域は男性」の考え方が支配的であった時代において、特異な存在であったことは確かである。本書はヴィクトリア時代の王権と王のジェンダーはどう関わっていたのかについての興味深い考察とあってよい。

遅咲きの女たちの遺言 家族史研究会創始のひとたち

猪飼隆明/著 熊本出版文化会館/発行
創流出版/発売 2006年4月 1995円

中学生と学ぶメディアリテラシー メディア社会を生きる力を育てる

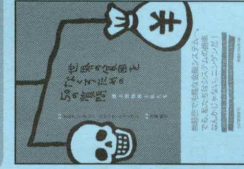


児童言語研究会・中学部会/編
一光社 2006年3月 1995円
中学生に本当のコミュニケーション能力をつけてもらうために書かれた。理論編と実践編に分けられ、使いやすい構成になっている。

ヒバクシャ ドキュメンタリー映画の現場から

鎌仲ひとみ/著 影書房 2006年3月 2310円

世界の貧困をなくすための50の質問 途上国債務と私たち



ダミアン・ミレー エリック・トウサン/著
大倉純子/訳
つげ書房新社 2006年5月 2100円
世界の貧困問題の中心的課題である途上国債務の問題をわかり易く解説。50の質問をたて、途上国を苦しめる債務のからくり、それが日本経済と太くつながっていることを明らかにしている。

私からはじまるまち育て

＜つながり＞のデザイン100の願い
延藤安弘とまちづくり大楽/著

貝の子ブチキュー

茨木のり子/作



2006年6月 1890円

詩人・茨木のり子が10代の終わりに書いた童話が絵本になった。きらきら輝く宝物を探して岩を必死ではいあがり、カニの子に食べられてしまう小さな貝の物語。青を基調にした美しい絵がついている。

戦前から戦後を生きた5人の女性の記録は貴重。日本の女性史の一面がよくわかり、高齢期を迎えてなおも関連に生きる様子から元氣を得ることができる。

ブッククラブ アメリカ女性と読書

エリザベス・ロング/著 田口瑛子/訳
京都大学図書館情報学研究會 2006年3月 5250円
ヒューストンの「白人女性」の読書グループについての19世紀から現在までの考察で、女性史、地域史、文学史でもある。文学とともに他者とかわること・ブッククラブについて、見直し、考え直してみよう。

従軍看護婦たちの大東亜戦争 私たちは何を見たか

『従軍看護婦たちの大東亜戦争』刊行委員会/編
祥伝社 2006年8月 1000円
日本赤十字社の看護婦として、中国大陸、南方、沖縄をはじめとする国内活動で任務にたった女性たちの体験記。

〔メディア・資料・雑誌〕

第一回文化庁映画賞は多くの賞を受賞した『ヒバクシャ』の映像作家による、制作のドキュメント。完全シナリオや『監督との対談』も収録されている。

男女共同参画白書 平成18年版

内閣府/編
(独)国立印刷局 2006年6月 2700円
平成18年度の特集は「女性が再チャレンジしやすい社会へ」。



共同参画21 No.24

内閣府/編 ぎょうせい 2006年5月 600円
特集は女性の再チャレンジ支援策。巻頭インタビューは堀由紀子さん(新江ノ島水族館館長)

〔平和・開発・エコロジー〕

風媒社 2006年6月 2310円
個を生かし、多様な価値観を発揮しながら、楽しくまちをつくっていく技法が満載されている。

紛争と難民 緒方貞子の回想

緒方貞子/著 集英社 2006年3月 3150円
国連難民高等弁務官としての著者の、イラク、パルカン、アフガン、アフリカ大湖地域にかかわった記録。90年代に生じ、今なお続く難民危機の絶望的状況にたちむかう記録である。

20世紀における女性の平和運動 婦人国際平和自由連盟と日本の女性

中嶋邦 杉森長子/編 ドメス出版 2006年5月 2520円
戦争の世紀といわれる20世紀。日本の女性の平和運動はどのような状態だったか。本書では「婦人平和協会」の活動を中心に、日本の女性団体の動きをおおっている。

〔絵本・こども・青少年〕

ADHD (注意欠陥 多動性障害)のおともたち 発達と障害を考える本 4

えいぞんくらぶ 高山恵子/編
ミネルヴァ書房 2006年6月 1890円
ADHD (注意欠陥 多動性障害)がお友達になった時、どう接したらいい? 特徴や気持ちを理解することができたら、そのお友だちの立場にたって考えることができる。

男の子おことわり、魔女オンリー ③ いちばんすてきなママはだれ?

④ ちははハッピーファミリー
トーマス・ブレッツィナ/著 松沢あさか/訳
さ・え・ら書房 2006年4月 各1365円
親同士の再婚でいっしょに暮らし始めた少女が魔女になったシリーズの第3作。第4作。

ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

＜単発もの＞

■「フィルムが紡ぐ女たち ビデオ/DVDに観るフェミニズム2005～2006」

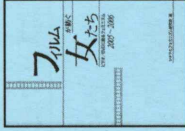
シネマとフェミニズム研究会 2006年4月 315円
今回で4冊目となる発刊。「ビデオ/DVDに観る女性像」「おすすすめ女性監督作品」「男性監督の性目作品」「資料編」の4章。資料としても価値がある。

■「マイ・シングル事情 30代、40代シングル&シングル卒業者の声」
サントリー-不易流行研究所 2004年6月 525円

■「中学校教科書のジェンダー・チェックⅡ」
高槻ジェンダー研究ネットワーク 2006年6月 840円

■「アジア女性性シリーズ マレーシアの女性」
(財)アジア女性交流・研究フォーラム 2006年4月 1000円

■「陳述書 館長阻止め・バックラッシュ裁判 原告・三井マリ子」
ファイトバックの会 2006年4月 840円



■「ハーストリー ふえみんの写真が語る女性の歴史1946～1981」
ふえみん婦人民主クラブ 2006年3月 315円
60周年を迎えるふえみん婦人民主クラブ所蔵の写真集。それぞれの写真が、女性の歴史＝ハーストリーを豊かに綴っている。

■「ひめじ男女共同参画データブック2006」
ひめじ男女共同参画データ研究会 2006年7月 525円

■「成人女性の健康についての現状と意識に関する調査 2005年 女の中から性と 一斉電話相談報告集」
ウィメンズセンター大阪 2006年3月 1050円

■「アジェンダ 第13号 脱・格差社会！」
アジェンダ・プロジェクト 2006年6月 500円

■「LD・ADHD・高機能自閉症とは？～特別な教育的ニーズをもつ子ども達～(増補版)」全国LD親の会 2006年6月 525円

＜シリーズもの＞

★New Join with...新しいなかま

■「しんぐるまざあず・ふおーらむ・関西 NEWS」
(リニューアル) Vol.1 2008年4月から、児童扶養手当の大幅削減が動き出す！／Vol.2 国会報告...参考人初体験・関西活動報告
NPO法人しんぐるまざあず・ふおーらむ・関西 2006年3・5月 420円



■「あなたとわたしと性」78号 10代の性感染症・人口妊娠中毒のいま！
性を語る会 2006年6月 315円

■「いこ☆る」第9号 特集:男女雇用機会均等法20年目の改正とこれからー実効ある均等法のために間接差別の法理をー働く女性の人権センターいこ☆る編集局 2006年7月 315円

■「季刊 i・MA」第23号 一筋の藤と広がった世界
いま編集部 2006年7月 480円

■「女たちの21世紀」No.46 特集:はたらくことと健康への権利
アジア女性資料センター 2006年5月 1260円

■「女のためのクリニックニュース」No.253 産婦人科が消えていく／254 女の子のからだ性と性のちよっと講座／255 女が紡ぐ～からだ性と性の「うた」募集 どの号も女と健康フェスティバル報告あり＞ウィメンズセンター大阪 2006年5・6・7月 420円

■「教育大阪 Vivo la Vita」657号 気になる「大学」2／658号 休日の過ごし方 夏休み編
(財)大阪市教育振興公社 2006年6・7月 350円

■「くらしと教育をつなぐWel(リニューアル)142号 特集:家族をひらく・地域をつくる／143号 特集:悪いのは私ではない
フェミックス 2006年6・8月 800円

■「Green Letter」VOL.42 インタビュー「自然にまかせて」
武田雅子 大阪心のサポートセンター 2006年7月 525円

■「里の家だより」N0.62 映画にみる介護 赤松彰子／「絵本春夏秋冬」16号(扶み込み) 絵本作家のジェンダー
里の家編集スタッフ・里の家絵本の部屋 2006年7月 315円

■「消費者情報」No.371 特集:追跡!消費者トラブル／No.372 「ゴミと省エネ」エコライフ／No.373 消費者法ファイル2006
(財)関西消費者協会 2006年5・6・7月 500円

■「職場の人権」41号 社会変化のなかの教育・仕事・家族-若年層と女性のライフコース問題についてー
研究会「職場の人権」 2006年7月 840円

■「女性としごと」NO.45 特集:年収300万円以下-女性の貧困化の現実
労働大学出版センター 2006年6月 500円

■「戦争と性」第25号 特集:「慰安婦」問題の現在
「戦争と性」編集室 2006年6月 1575円

■「世界女性会議 ネットニュース」No.59 賃金差別裁判をめぐ

るこの10年の到達点と課題 正路恰子／驚きの！教育基本法改正案 岡本京子 世界女性会議ネットワーク関西 2006年7月 630円
■「それゆけ女たち」No.155-156連載「セクハラ裁判の陳述書から」セクシャルハラスメントと闘う労働組合はあぶる 2006年6・7月 210円
■「高槻ジェンダー研究ネットワーク(TJKN)通信」No.27 中学校教科書のジェンダー・チェックⅡ～教科書のジェンダー・チェックに再び取り組んでー
高槻ジェンダー研究ネットワーク 2006年6月 315円
■「パワーアップニュース」VOL.51 自己尊重プラクティス協会
手塚千砂子さんインタビュー
パワーアップ・プランニング 2006年7月 315円
■「ひとりから」第30号 憲法第九条改悪を許さない自主国民投票を ひとり九条の会 スタート！
編集室ふたりから 2006年6月 1050円

■「ファイト・バック」Vol.66 サバイバーからの手紙(7)「犯罪被害者が発言すること」
性暴力を許さない女の会 2006年7月 525円

■「フィフティ・ネット」VOL.20 男女共同参画基本計画(第二次)にみる「ジェンダー概念」と「政策・方針決定の場への女性の参画」森屋裕子 NPO法人フィフティ・ネット 2006年7月 525円

■「フェミニストカウンセリングニュース」No.53 全国大会のお知らせ 日本フェミニストカウンセリング学会 2006年5月 315円

■「Voice」第161号 丸17年半の続柄裁判を終えて(4)／162号 住民票作成求め、裁判提訴...出生届差別記載拒否によりなくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2006年5・6月・7・8月合併 210円

■「VOICE OF WOMEN」272／273 プレカリアート哀歌～序章～
日本女性学研究会 2006年6・7月 158円

■「メンズネットワーク」No.80 特集:男の子育て・孫育て
メンズセンター 2006年7月 525円

■「月刊むすぶ」No.424 障害者自立支援法は変！／No.425 水俣病50年／No.426 2006年夏 原子力発電所のある風景
ロシナンテ社 2006年5・6・7月 840円

■「れ組通信」No.226 れスラ展望会の報告と重要なお知らせ／No.227 フェミニズムをツールに
れ組スタジオ・東京 2006年6・7月 525円

■「ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク ニュースレター」
No.43 勝利和解おめでとう！岡谷鋼機裁判・高裁で勝利和解
WWN 2006年4月 500円

■「女(わたし)のからだから」No.244 アムネスティ・インターナショナルが中絶の権利を保障する世界キャンペーンを提唱／No.245 クローン胚研究指針／No.246 「女(わたし)のからだから合宿」私の思い・期待
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2006年5・7・8月 315円

編集長の著者インタビュー

恋人とつくる明日

村瀬幸浩／著 十月号 2006年6月 1575円

「育て合う安心と信頼のための9章」とサブタイトルにあるように、本書は9章にわけて章立てされ、恋人とおしのよりよい関係づくりについて、素直に分かり易く、やわらかく語られている。

読すると新鮮な感覚に包まれると思う。著者の講義を聴いた学生たちが、何を思い、自分とパートナーの関係をどう描いたのかを極めて興味深く展開されているのだ。「自分が

著者インタビュー 第22回

『恋人とつくる明日』の著者

村瀬幸浩さんに聞く

(一橋大学・津田塾大学講師)



——村瀬さんの語りかけに対して、大学生たちが、とても率直に、気づきや驚きを語っているのが印象的です。自分の体験もしっかり踏まえていますね。

村瀬：一人の人間として、真剣に、懸命に考えて伝えていることをわかってもらえたのだと思います。思いをぶつけていけば、応えてくれるということです。それまでの彼／彼女らの性についての学習経験は、生きた言葉ではなく、通リーペンの説教や無表情な知識上の説明によるものばかりだったのかもしれない。自分の経験やとまどいも率直に話したことが心に響いたのではないだろうか。性について、もっと率直に語られることが必要な時になっていると思います。

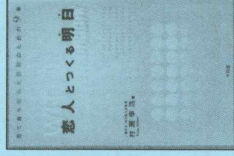
——：タイトルを「恋人とつくる明日」とされたのは？

村瀬：恋愛するとすぐにセックスへ、と思わされてしまっている若者たちに、＜セックス＝愛＞といえるのかどうか考えさせたい。そしてセックスは、急がない方がいいと言いたいです。「語り合いの中でお互いを尊重し、納得と安心を伴うコミュニケーションとしてしっかりとりくんでいくことが大切なのだよ」、そして「明日にむかってよりよい関係ををつくっていきこう」というメッセージのつもりで、つけました。

——：「デートDV」を大学の講義に入れられるようになって

求めているもの、相手が求めているものをハッキリさせる努力をしながら「関係」のあり方を改善していく。その中で相互の自己変革と関係の成熟を目指していくことが重要なのではないか」という著者の語りかけが、若い人たちの心にしっかりと刻まれているのがよくわかる。

自分は、支配／従属ではないセックスをしてきたか…大人たちも、この本を読んだら考えさせられるだろうし、このテーマは若者だけのものではないこともわかるはずである。(S)



4年と書いてありますが、これについての学生さんたちの反応はどうですか？

村瀬：「デートDV」という言葉は知っているが、具体的にどんなことが知らなかったという学生がほとんどです。「性行の感想の中にも、たくさんDVの例が出てきます。「性行為を拒否する彼女の腕を強くつかむ」という自分の行為を認識しながらも、それを暴力とは自覚していない男子学生とか…。セックスが対等な関係ではなく、男性主体の行為だという刷り込みがあり、その支配感が暴力につながっているとしたら、重大な問題です。

——：「知っておこう、互いのところ、からだ、そして性」の章には【男性編】、【女性編】のふたつが並んでいます。村瀬：お互いの性についての知識がほとんどないという実態があります。「エロ本」と呼ばれるものからの性情報だけで誤った知識を得ていた彼らが、講義によってほんとうの女性の性・月経やからだの生理一の事実を知ったといえます。

——：‘バックラッシュ’で、活動に影響もあると思うのですが、講義の感想に「心の交わりとして性を考える視点です、真の豊かな性的な関係をもつことの大切さを実感、納得した」とあることを、性教育に反対する人たちにも知ってほしいです。

村瀬：人間と人間の性的絆を結ぶには、相手に対する想像力、タフな神経とフレキシブルな対応力が求められます。コミュニケーション能力を高めることですね。思いが伝わらないからとすぐにあきらめたりせずに、語り合ってほしい。相手の言葉に耳を傾けてほしい。そして避妊(コンドームをつけること)についても、明るく明るいところで二人で話せるような関係で、楽しい明日を作ってほしいと願っています。

——：ありがとうございました。(聞き手：須田和)

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

書評

『藤沢発 オープンカレッジから生まれた女たちー女性学から実践へ』

湘南 VIRAGO / 編著 生活思想社 / 発行 2006年3月 2250円

黒木雅子(京都学園大学教員)

女性学が生まれて30年余り、「女性学は実践的なものでなければならぬ」という出発点に立ち返らせられる新鮮な本だった。本書は、1997年から10年間、神奈川県藤沢市にある短大で行われたオープンカレッジ、ゼミ、自主ゼミの講師と受講生の17人による、「個人的なことは政治的なこと」の学習と、「あなた自身をもっと好きになるため」の実践の記録である。そしてこの10年間、オープンカレッジとゼミを指導した小松加代子さんの女性学研究者としてのスタンスが、参加者の言葉を通して現れているように思う。またここには、「女性学に対する需要はもうないのではな」く、古く新しい女たちのニーズに対して、さまざまな工夫で取り組み、力をつけていった女たちの姿がある。受講生の言葉を借りれば、女性学とは完了形よりも、「現在進行形で語られる類の学問であり、また『行動する人たち』によって常に新しい変化が生み出され続けているもの」なのだ。



＜お詫び＞

NEW21号、2ページに掲載しました書評のタイトルが「オープンカレッジから生まれた女たち」になっておりましたが、正しくは「藤沢発 オープンカレッジから生まれた女たち」でした。また書評本文にある「湘南市」は「藤沢市」の間違いでした。お詫びして、訂正いたします。

ウィメンズブックス

WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストアものがたり

『女の本屋の物語』出版記念パーティ

2006年8月5日(土)ドーンセンターにて



乾杯 (音頭：山田芳子さん)

祝いの言葉
(竹中恵美子さん)

中西豊子さん



「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを掲載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
 - 個人会員 3000円
 - 海外会員・団体会員 3800円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込ください。ますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受け致しております。

〈送料〉

個人会員	書籍代 (消費税込み) が 15000 円以上の送料は無料
	書籍代 (消費税込み) が 15000 円未満の送料は上限 300 円
海外会員・団体会員	別途請求をさせていただきます

■ 'ゆう' だより

- ◎ 落合恵美子さんによると母親が「育児不安」をもつのは日本だけの特殊な文化。養育にもある「迷走する両立支援」を読むと、ここまでの子育てが難しくなっている実態に、ため息が出てしまいます。
- ◎ 8月5日の「女の本屋の物語」出版記念パーティには、暑い中たくさんの方々が集まってくれました。新しくなったウィメンズブックスストア ゆうも見てください感謝。
- ◎ 出版記念パーティの翌日、8月6日に開催された「何が危ない」「福井県ジェンダー関連図書」撤去事件」の集會も、部屋があふれんほどの人でいっぱいになりました。「だまっていたら、積み上げてきたものが崩れていく」ことを確認した集會でした。(ウィメンズブックス編集長：森屋裕子)

ウィメンズブックスストア

5・6・7月ベストセラーTOP5

1 Q&A 男女共同参画 / ジェンダーフリー・バッシング
バックラッシュへの徹底反論
日本女性学会ジェンダー研究会編
明石書店 2006年6月 1680円

2 壊れる男たち セクハラはなぜ繰り返されるのか
金子雅臣 / 著 岩波書店 2006年1月 777円

3 仕事論
ドーンセンター / 編 著 アルゴ / 発行
西日本出版社 / 発売 2006年2月 1365円

4 男女共同参画統計データブック 2006
日本の女性と男性
独立行政法人国立女性会館
ぎょうせい 2006年3月 2500円

5 バックラッシュ! なぜジェンダーフリーは叩かれたのか?
上野千鶴子 宮台真司 斎藤環 小谷真理 他 / 著
双風舎 2006年7月 1995円

女性センター、女性政策課、研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーディネートなど

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。
次号の締め切りは**2006年11月5日**です(発行予定日2006年11月25日)

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jpまでどうぞ

◎ 白費出版承ります。ご相談ください。◎

店舗 / ウィメンズブックスストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F
電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115
E-mail info@womens-books.jp
郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時
土・日・祝：午前11時から午後6時30分
定休日：月曜 ドーンセンター休館日